

提案趣旨説明書

<作品タイトル>

虹と雪「100年目のバラード」へ

<提案の趣旨>

さっぽろの街が生まれかわる――

1972年、第11回オリンピック冬季競技大会「札幌オリンピック」が、ここ真駒内を舞台に開かれました。

名曲「虹と雪のバラード」とともに記憶されるこの大会を契機に、札幌の街は大きく成長し、42年。街は成熟期を迎えました。ここ真駒内は、その歴史とともにあった地区です。

これから、新しい時代にあわせて真駒内は再び生まれかわります。「虹と雪のバラード」の時代とは逆に、札幌の街はゆるやかに縮小し、ゆとりが生まれます。その時、札幌の人々が楽しく豊かな生活を送るための鍵の一つが、ウィンタースポーツです。年齢も競技レベルも幅広い人々がスポーツを楽しみ、豊かな交流の場となる可能性を日本でいちばん秘めているのは、冬季オリンピックの舞台だったこの真駒内です。

このコンセプトの下、新しいまちの中核に通年利用型のアイスリンクを設けます。それを取り囲むようにして、スポーツを楽しむために工夫を凝らした商業施設を設けます。

老朽化した五輪団地をリノベーションし、子育て世代と高齢者世帯を呼び込み、世代間の交流を喚起します。

地域の新しい交通システムとして、都市型ロープウェイを提案します。目的は3つあります。1つはウィンタースポーツの重要な舞台である、既存の真駒内スタジアム・真駒内アリーナの利用を促すことです。2つめは、これまで南区外からの来訪者に「素通り」されていた真駒内地区の回遊性を高める事です。そのため、美術館の利用が見込まれる芸術の森へのアクセスもロープウェイにします。もう1つは、斜面によって分断されていた柏丘地区へのアクセスを劇的に改善することです。このロープウェイと、バスやタクシーへは地下鉄から平面的に乗り換えができるようにします。真駒内駅が頭端駅であることを活かすのです。真駒内は、人と環境にやさしい、スポーツと芸術の街に生まれかわります。

2040年にプロジェクトが完成すると、2072年頃にも、街の姿をそう大きく変えることなく使う事になるでしょう。

そして、その時がきたら。100年分の歴史の風格と、色褪せない明るい色彩を併せ持った「虹と雪のバラード」のメロディーが、この真駒内に響き渡ります。